

なる協力のもとに、今では大きな不安を抱えながらも将来の自分の姿が少しずつみえてきた、というところでしょうか。

出身は埼玉県浦和市（現さいたま市）、30代半ば、独身です。高校卒業後、約10年ほど島根県や埼玉県秩父郡という気軽に自然と触れ合うことの出来る場所で生活していましたが、今思えばこのときの経験が農業を志す基になっていると思います。5～6年前からは東京都内の地質コンサルタント会社に勤めていました。不況により会社が倒産すると同時に、それまで漠然としていた農業への憧れが具体化して「転職」を決意、仕事で何度か訪れたことがあり、その風景や風土が気に入っていた岩手県へ移住しました。

北上市農協では、農協自体が農業研修者を受け入れる事業を進めています。研修者は給料を貰いながら農協が用意した研修農場で日々農作業をおこない、また他に農業大学校等での研修を受けながら農業に関する知識を幅広く吸収し、農協が斡旋する農地で最終的に独立することが出来ます。私はその事業を最大限に利用して農業への道を歩もうと、北上市農協の門を叩きました。

実際に農協の研修者となり正解であったことはたくさんありますが、真っ先に挙げられる事はやはり地域の方々と交流できたことでしょうか。農協を通して農家の方々に紹介されることはもちろん、農協のイベント等にも積極的に参加することで「北上へ就農希望の青年がいる」ことを地元の方々に覚えてもらいました。今では相談事などでも農協の職員の方以外に若い農業者の方にお伺いすることが出来るなど、そのメリットはかなり大きかったと思います。また、就農する土地に関しても1ターン等では一番問題となるところですが、農協を通して土地を借りることでスムーズに解決することが出来ました。県内でも多くの新規就農者の方々が土地の問題ではかなり苦労した（している）という体験談を繰り返し聞いているので、この問題を解決出来たことは就農準備をするにあたり大きな前進となりました。その他にも、研修期間中は一定の収入があることで農業技術の習得に専念できること等、研修者であるメリットは多数

あります。

現在、ビニールハウスを利用した野菜と花卉の複合経営農家を目指しています。野菜は北上市農協の推進品目の一つである夏秋トマト、花卉ではやはり推進品目である秋出しパンジーを主体にストック等を考えています。ビニールハウスの周年利用のため、冬から春にかけても作物の栽培を考えていますが、労働力や収入の問題で理想的なものがなく、今のところ検討中です。

来年度には就農しますが、やはり最初は未熟者の域を出ません。少しでも諸先輩方に近づくために技術や知識の習得、情報収集に努力していかなければならないと思っています。農産物の出荷先も集荷施設を利用して大消費地に向けることになるでしょう。しかし、安い外国産野菜などが急増している現在では、流通面のコストなど価格競争力の低さに大きな不安があります。まだ漠然としてはいますが、将来的に大消費地へ出荷する主要品目の他に、産地直売所等を利用した地元消費者に向けての「安く」「安全」な作物の供給をおこない、徐々にそちらに重点を置いていきたいと考えています。

（岩手県北上市・農業）

## 負け戦の時のスタンス

福田 隆治

### 30年ぶりのホームグラウンド

2年前の50歳までは信用力のある「銀行員...」という名刺があり、若い時分から銀行員の立場で経営者の方々と商談することができた。人様から預かったお金で随分と貴重な経験をさせてもらった。バックボーンの銀行の信用があったからこそである。

バブル崩壊後、後ろ向きの仕事が嫌になったからリタイアした訳ではない。少々サラリーマンというか都会の暮らしに疲れたからである。定年帰農にはちょっと早いが、中年の新米百姓となった。名刺には「エコファー

ムノ福田農園」と飾りをつけてみた。コエタゴかつぐエコ百姓と格好をつけているだけだ。しかし、エコ百姓で正解だったようだ。少なくとも不良債権の発生はない。

他に肩書きのようなものは、昨年の6月にスタートした“牛を放牧して、竹やクズやススキに飲み込まれた荒廃地を整備しイノシシの被害を何とかくい止めよう。足元の生活する場をよくしよう”という試みの「小山地区放牧の会」と、今回の「駐村研究員」といったところだが、実績もないのでまだ名刺には入っていない。

#### 不良債権問題について

世の中堅調な時でも、整理してもきれいにしてもモグラタタキのモグラのように発生するのが不良債権である。バブル前、総資産に対する不良債権の比率は0コンマ以下の話であった。当時の金融機関の体力からすれば致命的な傷ではなかった。しかし、当該企業や銀行の担当者にすれば、再建や整理に膨大なエネルギーを使った。それが今、桁違いのボリュームとなった。しかも金融機関に体力もなければ、世の中の案配も冴えない。金利（銀行等の調達コスト）が0%に近いから何とかここまでもってきた。土地・株・債権・為替等の相場の動きを薄氷を踏む思いで見守るしか術がない在様である。

経済の構造改革ということが言われているが、連鎖の広がり心配だ。ソフトランディングのシナリオはあるのだろうか。

#### イノシシの逆襲

ところで、過疎化・高齢化が止まらないホームグラウンドの農林地は竹やクズに飲み込まれ、かつての里山、田園の風情はない。イノシシの餌場、隠れ場になっていた。人や経済が優先され、自然が顧みられなくなった結果、自然・経済・人がうまくリンクして循環していないようだ。

戦後は農地拡大による野生動物にたいする攻め、今は撤退で攻守ところを変えてはいるが、野生動物との攻防の戦線の場所が中山間地ではないかと思っている。撤退時の鳥獣被害のやられっぱなしの駄目押しはこたえる。

当地における今の中山間地戦線は、明治時代かそれ以前あたりのところまで縮小しているのではなからうか。そのころ作られた田畑が藪の中である。

動物と人がそれなりに棲み分けのできる安定した空間・環境は可能なのであろうか。旅先の旅館の庭先に出没する餌付けしたタヌキはかわいいと思うが、家族同様のニワトリやアイガモをやられた時は、顔で笑って腹で泣いている。

#### よみがえれ里地・里山

1年前20羽まで増えたニワトリやアイガモ達が、いま10羽余りである。私の不注意もあるが、タヌキやイタチの所為である。ところで、ニワトリの世界に強制換羽がある。2齢ぐらいで、水だけを与えて1～2週間絶食すると、再度見てくれのよい卵を生み出すという“若返りのショック療法”である。

日本はいま、ニワトリでいえば何才ぐらいであろうか。構造改革のタイミングを先送りにすればするほど若返りの体力はなくなっていく。敗戦の時も、バブルの時も、責任は曖昧で、1億総懺悔で幕を引いた。責任が曖昧では反省もほどほど、不良債権は連鎖倒産等でどんどん増殖した。いまさら犯人捜しをしても仕方がないが、正直者が馬鹿をみるのが世のならいでは、この先は暗い。思うに、政治家・官僚・学者・マスコミ等々の方向づけをする人々が多いが、方向づけは誰にもできること。仏作って魂入れずでは意味はない。中山間地でクワやカマを持ち、クマやイノシシと向き合う程の覚悟で事にあたれば、この難局は切り抜けられるかもしれない。

私は放牧の会の仲間と、12ヘクタール近くの里地・里山に、牛9頭、山羊3頭、ニワトリ・アイガモ達を周年放し飼いにし、イノシシやタヌキ達との知恵比べをしている。負け戦だけれども、“やっぱり人間さんはたいしたものだ、一応敬意は払っておこう”と思われようと。明日の試合につながる姿勢は崩したくないと思っている。

（島根県大田市・農業）